

令和7年度秋田県登録販売者試験問題
(午前部)

試験時間	令和7年8月27日（水） 10時30分から12時30分まで
試験問題数	医薬品に共通する特性と基本的な知識 20問（問 1～問20） 主な医薬品とその作用 40問（問21～問60）
注意事項	・試験担当職員の合図があるまで中を開いてはいけません。 ・各問題の正答は1つです。 ・2つ以上選択した場合、その問題は無得点となります。 ・HBの鉛筆等を使用しマークしてください。 ・解答を修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消してください。 ・マークシート用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。 ・「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。 ・退室できるのは、11：30～12：15（以後の再入場は認めません。）までで12：15以降は、試験終了後となります。

マークシートに記入する受験番号は、受験票の受験番号6桁を右詰で記入してください。

受験票の受験番号 1 0 0 1 2 3 の場合

[illegible]

問1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 期待される有益な効果（薬効）のみをもたらす。
- b 用法用量や副作用の情報が適切に伝達される必要がある。
- c 市販後にも有効性、安全性等の確認が行われ、リスク区分や承認基準が見直される。
- d 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に高い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問2 次の1～5で示される非臨床試験のうち、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った毒性試験として、誤っているものはどれか。

- 1 反復投与毒性試験 2 単回投与毒性試験 3 皮膚感作性試験
- 4 一般薬理試験 5 皮膚光感作性試験

問3 医薬品の効果とリスクに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a Good Clinical Practice（G C P）に準拠した手順で安全な治療量を設定することが、臨床試験（治験）の目標の一つである。
- b 医薬品は、食品と同水準の安全性基準が要求されている。
- c 投与量の増加に伴い、「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。
- d 製造販売後安全管理の基準としてGood Vigilance Practice（G V P）が制定されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問4 機能性表示食品に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

機能性表示食品は、事業者の責任で、科学的根拠をもとに、疾病に(a)の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして、国に(b)された商品である。

	a	b
1	罹患している者	許可
2	罹患していない者	届出
3	罹患している者	届出
4	罹患していない者	許可
5	罹患していない者	認定

問5 セルフメディケーションの推進に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、一般用医薬品を一定期間使用しても症状の改善がみられない又は悪化した購入者に対しては、別の一般用医薬品の使用を勧める必要がある。
- b セルフメディケーションの主役は、医薬品の販売に従事する専門家である。
- c 風邪やアレルギーの諸症状に対応する一般用医薬品の中には、セルフメディケーション税制の対象となっているものがある。
- d 登録販売者は、一般用医薬品に関する正確で最新の知識を常に修得するよう心がけることが望まれる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問6 医薬品の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の有効成分である薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- b 世界保健機関（WHO）の定義によれば、副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ予測できる反応」とされている。
- c 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病に対しては症状を悪化させることもある。
- d 医薬品を十分注意して適正に使用した場合であっても、副作用が生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問7 医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、重大な副作用を回避することよりも、医薬品の使用を継続することによる利益が優先される。
- b 発生原因の観点から、薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）によるものに大別することができる。
- c 明確な自覚症状として現れないことがある。
- d アレルギーを引き起こす原因物質をアナフィラキシーという。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問8 医薬品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 吸収、分布、代謝又は排泄^{せつ}される過程で起こるものと、薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- b 総合感冒薬とアレルギー用薬の併用は、成分や作用が重複することは少なく問題ない。
- c 緩和を図りたい症状に合った成分のみが配合された医薬品を選択することが望ましい。
- d 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、通常、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問9 食品と医薬品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、アセトアミノフェンの薬効が十分に得られないことがある。
- b 総合感冒薬とコーヒーと一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取となることがある。
- c ハーブは、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- d 食品は、外用薬や注射薬の作用や代謝に影響を与えることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問10 小児等の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は、成人と比べて血液脳関門が発達しているため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしにくい。
- b 登録販売者は、年齢に応じた用法用量が定められていない医薬品について、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるよう、保護者等に対して説明する必要がある。
- c 乳児は、状態が急変しやすいので、医師の診療を受けることより、手元にある一般用医薬品の使用が優先されるべきである。
- d 乳幼児の誤飲・誤用事故の場合は、応急処置等について関係機関の専門家に相談し、又は様子がおかしいようであれば医療機関に連れていく必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問11 妊婦又は妊娠していると思われる女性及び授乳婦の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の成分が胎児に移行する量は、未解明のことが多い。
- b ビタミンA含有製剤を妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- c 便秘薬の配合成分やその用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがある。
- d 授乳婦が使用した医薬品の成分が乳汁中に移行することはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問12 適切な医薬品選択及び販売時のコミュニケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の情報提供は、使用する人に誤認が生じないように正確な専門用語を用い、相手によって表現を変えることのないよう注意して行う。
- b 一般用医薬品には、スポーツ競技におけるドーピングに該当する成分を含んだものはない。
- c 第二類医薬品を販売する場合、登録販売者はその医薬品を使用する人として小児や高齢者、妊婦が想定されるか確認するよう努めなければならない。
- d 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、その医薬品によって対処しようとする症状が現にあるか把握するよう努めることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

問13 プラセボ効果に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 客観的に測定可能な変化として現れることがある。
- b 医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）が関与して生じることがある。
- c 医薬品の使用による反応や変化に、プラセボ効果によるものは含まれない。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は望ましいもの（効果）であり、不都合なもの（副作用）はない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問14 医薬品の品質に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 光（紫外線）に影響されない。
- b 高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- c 表示されている使用期限は、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- d 適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問15 医薬品医療機器等法第4条第5項第4号に規定されている一般用医薬品の定義に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が(a)のものであって、(b)情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）

	a	b
1	著しくない	薬剤師その他の医薬関係者から提供された
2	著しくない	自ら取得した
3	緩やかな	薬剤師その他の医薬関係者から提供された
4	緩やかな	自ら取得した
5	著しい	薬剤師その他の医薬関係者から提供された

問16 次のうち、一般用医薬品の役割として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 生活の質（QOL）の改善・向上
- b 重度な疾病に伴う症状の改善
- c 生活習慣病の診断
- d 健康の維持・増進

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問17 サリドマイド及びその訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血管新生を促進する作用がある。
- b 解熱鎮痛剤として販売された。
- c サリドマイド訴訟を契機として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品の感染等被害救済制度が創設された。
- d サリドマイドによる薬害事件により、WHO加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問18 スモン及びその訴訟に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 整腸剤として販売されていたラクトミン製剤の使用による健康被害である。
- b 初期には下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れ、次第に腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、ときに聴覚障害から失聴に至ることもある。
- c スモン患者の早期救済のために、各地の裁判所において和解が勧められ、全面和解が成立した。
- d スモン患者に対する施策や救済制度として、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、生活資金の貸付のほか、重症患者に対する介護事業が講じられている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問19 ヒト免疫不全ウイルス（H I V）訴訟に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a H I V訴訟を契機として、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための緊急輸入制度の創設等を内容とする改正薬事法が成立した。
- b H I Vが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、白血病患者がH I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- c 国及び医療機関を被告として、大阪地裁、東京地裁で提訴された。
- d H I V訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

1（a、c） 2（a、d） 3（b、c） 4（b、d）

問20 クロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）及びその訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ウイルスであるプリオンが原因とされている。
- b プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないうまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にC J Dが発生した。
- c C J D訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたウシ乾燥硬膜を介してC J Dに罹患したことに対する訴訟である。
- d プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問21 かぜ（感冒）、かぜ薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜ薬は、かぜの原因となるウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することにより、かぜ症状の緩和を図る対症療法薬である。
- b かぜの原因には、アレルギーのような非感染性の要因によるものはない。
- c かぜは、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
- d 鎮咳成分であるジヒドロコデインリン酸塩は、12才未満の小児には使用禁忌となっている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問22 かぜ薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a メキタジンは、去痰成分として用いられる。
- b グリチルリチン酸は、大量摂取により、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- c トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。
- d メチルエフェドリン塩酸塩には、依存性があることに留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	誤

問23 以下の化学的に合成された解熱鎮痛成分の作用に関する記述について、()の中に入るべき字句として正しいものはどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

解熱に関しては、中枢神経系における()の産生抑制作用のほか、腎臓における水分の再吸収を促して循環血流量を増し、発汗を促進する作用も寄与している。体の各部(末梢)での痛みや炎症反応に対しては、局所の()産生を抑制する作用により、それらを鎮める効果を発揮する(アセトアミノフェンの場合を除く)。

- | | | |
|-------------|---------|----------|
| 1 プロスタグランジン | 2 チアミン | 3 リボフラビン |
| 4 メラニン | 5 システイン | |

問24 鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 芍薬甘草湯は、体力に関わらず使用でき、筋肉の急激な痙攣を伴う痛みのあるもののこむらえり、筋肉の痙攣、腹痛、腰痛に適すとされる。
- b 桂枝加朮附湯は、体力中等度で、痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされる。
- c 薏苡仁湯は、体力中等度で、関節や筋肉のはれや痛みがあるものの関節痛、筋肉痛、神経痛に適すとされる。
- d 疎経活血湯は、体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの関節痛、神経痛に適すとされる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 |

問25 眠気を促す薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人を対象とするものである。
- b 抑肝散^{よくかんさん}は、体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症^{かん}（神経過敏）、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- c かつては不眠症や不安緊張状態の鎮静を目的にブロモバレリル尿素が頻繁に用いられていたが、近年は使用量が減少している。
- d ジフェンヒドラミン塩酸塩は、アルコールとともに服用すると、薬効が減弱される。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問26 眠気防止薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200mg、1日摂取量はカフェインとして500mgが上限とされている。
- b カフェインには、依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
- c 眠気防止薬は、小児に使用することができる。
- d カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制作用があり、尿量の増加をもたらす。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問27 鎮^{うん}痛^し薬^{りやく}の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳への血流を抑制する作用を示す。
- b スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させる作用を示す。
- c 無水カフェインは、抗めまい成分による眠気の解消を目的として配合されている。
- d ピリドキシン塩酸塩は、吐きけの防止に働くことを目的として配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問28 鎮^が咳^い去^{たん}痰^{たん}薬^{りやく}の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ジプロフィリンは、自律神経系を介して気管支の平滑筋を弛^し緩させ、気管支を拡張させる。
- 2 ノスカピンは、麻^が薬^い性鎮^が咳^い成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって多幸福感が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- 3 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、痰^{たん}の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることで、痰^{たん}の切れを良くする成分である。
- 4 カンゾウは、抗炎症作用のほか、気道粘膜からの粘液分泌を促すことを期待して配合されている。

問29 口腔^{くわう}咽喉^{くわう}薬及びうがい薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トローチ剤は、有効成分が口腔^{くわう}内や咽頭部^かに行き渡るよう、噛み砕いて使用することが望ましい。
- b 口腔^{くわう}咽喉^{くわう}薬は、成分の一部が口腔^{くわう}や咽頭の粘膜から吸収されて循環血流中に入り、全身的な影響を生じることがある。
- c 水で用時希釈又は溶解して使用するうがい薬は、調製した濃度が濃いほど十分な効果が得られる。
- d 口腔^{くわう}内に噴射して使用する外用液剤は、息を吸いながら噴射することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	誤

問30 胃腸に作用する成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ピコスルファートナトリウムは、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として配合されている。
- b オウレンは、結腸や直腸の粘膜を刺激して排便を促すことを目的として配合されている。
- c ビフィズス菌は、腸内細菌のバランスを整えることを目的として配合されている。
- d 沈降炭酸カルシウムは、腸管内に生じた有害な物質を吸着することを目的として配合されている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問31 止瀉薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 木クレオソートには、水分や電解質の分泌を抑える止瀉作用がある。
- b ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食あたりや水あたりによる下痢の適用対象ではない。
- c ベルベリン塩化物は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d ビスマスを含む成分は、長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退等）が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問32 瀉下薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒマシ油は、妊婦や3歳未満の乳幼児では使用を避けることとされている。
- b センナ中に存在するセンノシドは、胃では分解されないが、小腸に生息する腸内細菌によって分解されて、小腸への刺激作用を示す。
- c ジオクチルソジウムスルホサキシネート（DSS）は、糞便中の水分量を増して柔らかくする作用を期待して用いられる。
- d カルメロースナトリウム（別名カルボキシメチルセルロースナトリウム）は、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくする作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問33 浣腸薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門や直腸の粘膜に損傷がある場合に、その治癒を促す効果を期待して用いられる。
- b 注入剤を半量使用する場合、残量を再利用すると感染のおそれがあるので使用後は廃棄する。
- c ソルビトールは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 浣腸薬を繰り返し使用すると、直腸の感受性の低下が生じて効果が弱くなるため、連用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問34 心臓の働き、心臓に作用する薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 強心薬は、平滑筋に作用して、その収縮力を高める成分（強心成分）を主体としている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高める作用があるとされる。
- c 心臓は、血液を全身に循環させるポンプの働きを担っており、通常、体性神経系によって無意識のうちに調整がなされている。
- d 苓桂朮甘湯は、利尿作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問35 センソに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示す。
- b 微量で強い強心作用を示す。
- c 通常用量においても、悪心（吐きけ）、嘔吐^{おう}の副作用が現れることがある。
- d 一般用医薬品では、1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問36 次の表は、ある高コレステロール改善薬に含まれている成分の一覧である。

6カプセル中	
パンテチン	375mg
大豆油不けん化物	600mg
トコフェロール酢酸エステル	100mg

次のうち、この高コレステロール改善薬を服用するにあたっての登録販売者の説明として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがある成分が含まれています。
- b 尿が黄色くなる成分が含まれていますが心配ありません。
- c 血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和を目的とした成分が含まれています。
- d 1年くらい服用を続けても症状・コレステロール値に改善が見られない時には、服用を中止し、医療機関を受診してください。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, c) 4 (b, d) 5 (c, d)

問37 コレステロール、脂質異常症及び高コレステロール改善薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コレステロールは、水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿^{しょう}タンパク質と結合したりリポタンパク質となって存在する。
- b 脂質異常症とは、低密度リポタンパク質（LDL）が 140mg/dL 以上、高密度リポタンパク質（HDL）が 40mg/dL 未満、中性脂肪が空腹時 150mg/dL 以上のすべてを満たす状態をいう。
- c 血液中のLDLが多く、HDLが少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- d ガンマ-オリザノールは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問38 貧血用薬の配合成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句として正しいものはどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

()は、ビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸()が配合されている場合がある。

1 銅 2 コバルト 3 マンガン 4 鉄 5 カリウム

問39 貧血、鉄製剤及びその副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤は、ビタミン欠乏性貧血に対して鉄分を補充することにより、造血機能の回復を図る医薬品である。
- b 複数の鉄製剤を併用すると、鉄分の過剰摂取となり、胃腸障害や便秘の副作用が起こりやすくなる。
- c 鉄分の摂取不足が生じると、初期に貯蔵鉄や血清鉄が減少するため、ただちに貧血の症状が現れる。
- d 鉄製剤の消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問40 循環器用薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ユビデカレノンは、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- 2 ルチンは、高血圧における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- 3 ヘプロニカートは、グリチルリチン酸が遊離し、末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- 4 コウカは、末梢の血行を促して、うっ血を除く作用があるとされる。

問41 外用痔疾用薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 坐剤及び注入軟膏では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- b 痔に伴う痒みを和らげることを目的として、抗ヒスタミン成分であるクロタミトンが配合されている場合がある。
- c 肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、ステロイド性抗炎症成分であるグリチルレチン酸が配合されている場合がある。
- d 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、アラントインのような組織修復成分が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問42 第1欄の記述は、内用痔疾用薬として使用される漢方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

通常、構成生薬としてダイオウを含む漢方製剤であり、体力中等度以上で、大便がかたく、便秘傾向のあるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、悪心・嘔吐、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第2欄

- | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 1 | 葛根湯
<small>かつこんとう</small> | 2 | 芎歸膠艾湯
<small>きゅうきぎょうがいとう</small> | 3 | 八味地黄丸
<small>はちみじおうがん</small> |
| 4 | 猪苓湯
<small>ちょうれいとう</small> | 5 | 乙字湯
<small>おつじとう</small> | | |

問43 婦人薬に含まれる生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、サフランが配合されている場合がある。
- b 血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静、鎮痛等の作用を期待して、センキュウが用いられる場合がある。
- c 鎮痛・鎮痙の作用を期待して、ブクリョウが配合されている場合がある。
- d ダイオウを含有する医薬品については、妊婦又は妊娠していると思われる女性、授乳婦における使用に関して留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問44 第1欄の記述は、婦人薬として使用される漢方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適すとされるが、胃腸の弱い人では悪心（吐きけ）、嘔吐、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害、腸間膜静脈硬化症を生じることが知られている。

第2欄

- | | | |
|---------|-----------|-------|
| 1 加味逍遙散 | 2 柴胡桂枝乾姜湯 | 3 六味丸 |
| 4 竜胆瀉肝湯 | 5 消風散 | |

問45 アドレナリン作動成分に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

交感神経を刺激して鼻粘膜を通っている血管を（ a ）させることにより、鼻粘膜の（ b ）や腫れを和らげることを目的として、ナファゾリン塩酸塩、フェニレフリン塩酸塩、テトラヒドロゾリン塩酸塩などのアドレナリン作動成分が用いられる。

- | | a | b |
|---|----|------------------|
| 1 | 収縮 | 充血 |
| 2 | 収縮 | 化膿 ^{のう} |
| 3 | 拡張 | 疼痛 ^{とう} |
| 4 | 拡張 | 充血 |
| 5 | 拡張 | 化膿 ^{のう} |

問46 点眼薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼後は、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むので効果的とされる。
- b ソフトコンタクトレンズを装着したまま点眼すると、レンズに防腐剤などの配合成分が吸着し、角膜に障害を引き起こす場合がある。
- c 人工涙液には、目の痒み、結膜充血を抑える成分が配合されている。
- d アレルギー用点眼薬には、花粉、ハウスダスト等による目のアレルギー症状の緩和を目的とした成分が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問47 第1欄の記述は、眼科用薬の配合成分に関するものである。()の中に入れるべき字句について、第2欄に掲げる成分のうち最も適するものはどれか。

第1欄

()は、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の反応を改善する効果を期待して用いられる。

第2欄

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1 ビタミンA | 2 ビタミンB2 | 3 ビタミンB6 |
| 4 ビタミンB12 | 5 ビタミンE | |

問48 きず口等の殺菌消毒成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句として正しいものはどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

()は、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌^{のう}）に対する殺菌消毒作用を示す。()の作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化、及び発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性は乏しく、また、組織への浸透性も低い。刺激性があるため、目の周りへの使用は避ける必要がある。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 イソプロピルメチルフェノール | 2 ベンザルコニウム塩化物 |
| 3 エタノール | 4 オキシドール |
| | 5 クロルヘキシジン塩酸塩 |

問49 にきびと吹き出物の治療に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

にきび、吹き出物は、最も一般的に生じる(a)である。その発生要因の一つとして、老廃物がつまった毛穴の中で(b)であるアクネ菌が繁殖することが挙げられる。

(c)は、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示すことで、(a)の治療に使用される。

- | | a | b | c |
|---|-----------------------|-------|------------|
| 1 | 化膿性皮膚疾患 ^{のう} | 皮膚糸状菌 | クロラムフェニコール |
| 2 | 化膿性皮膚疾患 ^{のう} | 皮膚常在菌 | スルファジアジン |
| 3 | 表在性真菌感染症 | 皮膚糸状菌 | スルファジアジン |
| 4 | 表在性真菌感染症 | 皮膚常在菌 | クロラムフェニコール |
| 5 | 化膿性皮膚疾患 ^{のう} | 皮膚糸状菌 | スルファジアジン |

問50 抗真菌作用を有する配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる。
- b テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる。
- c ウンデシレン酸亜鉛は、患部をアルカリ性にする事で、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- d ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げることで、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問51 頭皮・毛根に作用する配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）においてアセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示す。
- b エストラジオール安息香酸エステルは、男性ホルモン成分の一種である。
- c チクセツニンジン は、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- d ヒノキチオールは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問52 歯槽膿漏薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、アスコルビン酸が配合されている場合がある。
- b 抗炎症、抗菌などの作用を期待して、カミツレが配合されている場合がある。
- c 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、チモールが配合されている場合がある。
- d 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果を期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問53 口内炎及び口内炎用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることがある。
- b 口内炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解する。
- c フィトナジオンは、患部からの細菌感染防止を目的として配合されている場合がある。
- d シコンは、組織修復促進や抗菌などの作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問54 禁煙補助剤に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

禁煙補助剤は、(a)に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品である。嘔むことにより口腔内でニコチンが放出され、(b)から吸収されて循環血液中に移行する咀嚼剤と、1日1回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行するパッチ製剤がある。

	a	b
1	ニコチン置換療法	口腔粘膜
2	ニコチン置換療法	胃粘膜
3	ニコチン置換療法	腸粘膜
4	ニコチン強化療法	胃粘膜
5	ニコチン強化療法	口腔粘膜

問55 滋養強壮保健薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ナイアシンは、下垂体や副腎系に作用してホルモンの分泌の調節に関与するため、ときに経血量が多くなることがある。
- b アスパラギン酸ナトリウムは、ビタミンCの吸収を助ける働きがある。
- c アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、肝臓機能を改善する働きがある。
- d コンドロイチン硫酸は、軟骨成分を形成及び修復する働きがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問56 次の1～5で示される生薬成分のうち、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とし、肌荒れやいぼに用いられるものはどれか。

- 1 ヨクイニン 2 オウギ 3 ゴミシ 4 タイソウ
5 サンシュユ

問57 漢方の病態認識に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「実」の病態に適応するものは、「体力が充実して」と表現される。
- b 「血虚」の病態は、「皮膚の色つやが悪く」と表現される。
- c 「陽」の病態は、「のぼせがみで顔色が赤く」などの熱症状として表現される。
- d 「脾胃虚弱」の病態に適応するものは、「胃腸虚弱で」と表現される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問58 消毒薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エタノールは、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させ、それらの作用を消失させる。
- b サラシ粉は、酸性の洗剤と混ぜることで有毒な塩素ガスを発生させる可能性がある。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類やウイルス全般に対して優れた殺菌消毒作用を示すため、通常人体の消毒に使用される。
- d クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類や真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスには効果がない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問59 衛生害虫に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、^{くん}燻蒸処理による殺虫効果は高い。
- b ヒョウヒダニ類は、ヒトを刺すことはないが、気管支喘息やアトピー性皮膚炎を引き起こすことがある。
- c シラミは、種類ごとに寄生対象となる動物が決まっているため、ヒト以外の動物に寄生するシラミがヒトに寄生して直接的な害を及ぼすことはない。
- d ハエは、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱を媒介する。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問60 一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されることのないものを体外診断用医薬品という。
- b 一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで、疾病を早期発見するためのものである。
- c 検体中に存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を偽陰性という。
- d 検査に用いる検体は、尿、^{ふん}糞便、鼻汁、唾液、涙液など採取に際して侵襲（採血や穿刺等）のないものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問題訂正について

問57については、選択肢 a 及び d を下線のとおり訂正しましたので、これに基づき解答してください。

問57 漢方の病態認識に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「実」の病態が適応となるものは、「体力が充実して」と表現される。
- b 「血虚」の病態は、「皮膚の色つやが悪く」と表現される。
- c 「陽」の病態は、「^ひのぼせ^みぎみで顔色が赤く」などの熱症状として表現される。
- d 「脾胃虚弱」の病態が適応となるものは、「胃腸虚弱で」と表現される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤